

事業所における自己評価結果						
事業所名		公表				
子ども発達・子育て支援センター なかよしひろば		2025年2月28日				
チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など		課題や改善すべき点	
環境整備・体制	1 訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	100%		絵カード、視覚情報の掲示物などどのようなものを使用しているか、実物を見せて説明している。	・今後も支援の教材などを実際に見せながら、関係者の方々がより使用のイメージをもつことができるような関わりを継続していきたいと思います。	
	2 利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		必要な人数配置を都度、検討しながら訪問支援を行っている。	・訪問先とも話しながら、適切な訪問員の人数を調整し訪問支援を行っていきます。	
業務改善	3 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	80%	20%	終礼の際に、訪問時の様子を周知し課題について共有した。その際に、目標に対しての実行をして終わってしまった事もあったため、振り返りのみを行える時間の確保に努めています。	・訪問後に課題の共有後の支援について、目標設定だけではなく振り返りも行なながら、子どもたちに丁寧な支援を継続的に提供できるよう終礼の時間配分や会議のあり方について職員全体で検討したいと考えています。	
	4 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		一年に一度評価表に記入してもらい、その内容を元に職員間で話し合い業務改善に繋げている。	・継続して、保護者からの意向を把握できる機会を確保します。	
	5 従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		終礼の際に、その時間を設けている。	・終礼や職員会議などで、意見の検討を全体で行う場を設定します。	
	6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	80%	20%	視察の方や研修・実習生の受け入れをしている。その際には、感想などをいただくようにしている。	・いただいた意見や評価を、職員全体で共有しながら、支援の質の向上や改善点について検討していきます。	
	7 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		法人内で、研修の機会が多く設けられている。	・今後も研修への参加を促しながら、事業所内研修も行い職員の研鑽に努めていきたいと思います。	
	8 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	100%		保護者のニーズを確認しつつ、保育所や児童発達支援での様子も踏まえた計画作成を行なっている	引き続き、保護者や関係機関での様子を把握しながら計画書の作成を行なっていきます。	
	9 保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		子どもに関わる職員からの意見を集め、検討したものを計画へ反映させるようにしている	より良い支援に繋げていけるように、今後も職員間での意見交換を活発に行い、計画に反映させていきます。	
適切な支援の提供	10 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	100%		訪問時に、事業所での子どもの支援に対してどんなことを求めているのかを確認している。その内容を計画に盛り込んでいる。	訪問先の先生方も忙しい中対応をしていただいているので、貴重な時間を無駄にしないように訪問先の意向をしっかりと汲み取った訪問支援計画書の作成に努めてまいります。	
	11 保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		職員会議、終礼等、また保育所等訪問支援会議にて計画を元に共有し、個々の発達段階に応じた支援を行っている。	引き続き、職員間での情報交換を行い共通理解のもとで支援を行なっていきます。	
	12 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		保護者の方に、発達検査の結果、OT・ST・リハビリ計画書をコピーしてもらいた職員間で共有している。また面談等行った内容を職員間で終礼などで共有している。	育ちのミカタを活用していくことで、保育所との情報交換を密に行なっていけるように取り組んでいきます。	
	13 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		ガイドラインに沿い、本人支援や家族支援等の内容を計画に反映している。	引き続きガイドラインを参照しながら、支援計画の作成に努めてまいります。	
	14 保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		職員会議、終礼等、また保育所等訪問支援会議にて計画を元に共有し、個々の発達段階に応じた支援を行っている。	引き続き、職員間での情報交換を行い共通理解のもとで支援を行なっていきます。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		支援開始前には、担当職員と子どもの現在の様子や課題について確認を行い、その内容を元に訪問支援に行き集団での様子や課題との照らし合わせを行っている。複数名で訪問する場合にも必ず打ち合わせをしている。	チームで連携することで訪問先の負担が軽減し、より良い訪問支援が提供できるように引き続き取り組んでまいります。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		終礼の中で振り返りを行い、職員間で訪問時の様子を踏まえた意見交換を行っている。	引き続き職員間での情報共有や意見交換を行なっていきます。	

関係機関や保護者との連携	17 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	100%		担当保育士との話し合いだけでなく、園長先生や副園長先生の意向等も伺うように努めている。	訪問先との良好な関係が維持、発展していくように取り組みを継続していきます。
	18 毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	100%		支援毎に記録を残している。終礼や会議の場で報告し検証等を行なっている。	引き続き職員間で情報を共有し、検証・改善に取り組んでいきます。
	19 定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		定期的に担当者会議を行うなど、その機会を設け見直しを行っている。	引き続き、定期的なモニタリングを行い適切な見直しに努めています。
保護者等への説明等	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		児童発達管理責任者と訪問支援員等が出席をしています。	引き続き適任者を出席させることで、より良い情報共有の場となるよう努めています。
	21 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		訪問先の担任との関係作りも課題として日々相談しやすい関係を構築していくように意識して取り組んでいる。何かあれば関係機関にすぐに連絡を取り合うようにしている。	訪問先の担任の先生との関係を深めていけるように関係性の構築。
	22 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		学校開催の支援会議に参加し、児の情報共有を行ない相互理解に努めている。	小学校へ連絡取り、見学に行かせてもらっている。
	23 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	60%		内部研修の機会は多くあるが、外部研修の機会が少ないので研修に対しての情報共有を職員間で積極的に行う。	リモート研修など活用します。
	24 (自立支援)協議会子こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	100%		定期的に自立支援協議会に参加している。	引き続き参加します。
	25 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		コドモン等のツールや電話、また行事の際に直接会って保護者との話す機会を持っている。その際には出来ている事を認め次の課題についての話しを行っている。	丁寧に伝えています。
	26 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	80%	20%	親子グループミーティングなどの時間を設け、それぞれの家庭の様子を話せる機会を設けている。またその際には、事業所内の心理士がアドバイス助言等を適切に行っている。参加人数を今後も増やしていく取り組みを行事等の機会も活用しながら増やしていく。	案内を丁寧に行なっています。
	27 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		契約の際に丁寧に説明を行っている。	解りやすく丁寧に説明します。
保護者等への説明等	28 訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	100%		訪問支援とは別の機会を設け、資料を作成しその主旨を説明した。	今後も年度の初めに訪問するようにしていきます。
	29 保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		担当者会議を設け、こどもや家族の意向を伺い計画に反映している。	アセスメントしながらお子さんや保護者の意向を尊重しながら作成に努めます。
	30 「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	100%		担当者会議の際に、計画を用いて説明を行い同意を得ている。	6ヶ月に一度面談にて、モニタリングをし更新している。家庭での様子も伺いながら同意を求めている。
	31 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	100%		担当者会議以外でも、電話等で必要な相談に応じている。緊急の際には、各所機関にも連携をお願いし会議の開催を行い、保護者の相談に応じた。	相談しやすい雰囲気や環境づくりを行なっています。保護者との関係性の構築に努めます。
	32 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	80%	20%	一年に三回程、保護者兄弟児参加の行事を開催。その際日頃会う事のない保護者に声をかけたり、児の成長について実際に会って話す事を心がけている。	保護者同士の交流の場が持てる行事等を積極的に開催し呼びかけを行いたいと思います。
	33 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		一年に三回程、保護者兄弟児参加の行事を開催。その際日頃会う事のない保護者に声をかけたり、児の成長について実際に会って話す	今後も必要に応じて柔軟に会議等の開催を行い、相談などの対応に努めています。

	<p>34 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。</p>	80% 20%	年四回のなかよしひろばよりを発行すると共に、年一回運動教室の取り組みの様子を個別に発行している。また日々の様子をコドモンのツールを用い利用した日の様子を伝えている。	今後も日々の活動はコドモンのツールを使用し細かく活動などの様子を伝えていきます。また、定期的なおたよりの発行を通して、よりなかよしひろばの情報を発信していきます。
	<p>35 個人情報の取扱いに十分留意しているか。</p>	100%	施錠の出来る棚に書類は保管している。またUSBメモリーを禁止している。	重要書類等、個人の情報に関わる書類は施錠した棚に保管していきます。またUSBも引き続き禁止していきます。
	<p>36 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。</p>	100%	口頭で伝えるだけでなく、必要に応じて文面にして提示している。	個々に応じて適切に対応できるように、職員間で話し合いその子にあった最適な情報伝達の方法を用いて行っています。保護者に関しては、連絡の手段を電話だけでなく、手紙またコドモンのツールを使用し適切に情報伝達を行います。
訪問先施設への説明等	<p>37 訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。</p>	100%	具体的な助言を行う事が難しかった。より専門性を深める必要性を感じた	相談に対しては、会議などの場を設定したり、電話等で適宜対応出来るようにしていきます。また、日頃から専門性を持った助言が行えるように、研修などを通じて専門性を高めていきます。
	<p>38 保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。</p>	100%	訪問に行った際には、個別の会議の場を設けてもらったり、活動時、立ち話などでも子どもの様子の確認共有を行っている。	訪問支援先に会議の場を設けてもらえるように、事前に相談し時間調整を行っていきます。
	<p>39 保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。</p>	100%	コドモンのツールを通して、報告を行っている。	今後もコドモンのツールで知らせたり、電話や対面等の時間を作り共有を行っていきます。
	<p>40 個人情報の取扱いに十分留意しているか。</p>	100%	施錠の出来る棚に書類は保管している。またUSBメモリーを禁止している。	施錠出来る棚に書類を保管し、今後もUSBメモリーの使用を禁止していきます。
	<p>41 訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。</p>	100%	訪問時の話し合いの際には、日ごろの療育の様子を伝える中で、集団保育に使えそうな支援は積極的に提示している。また子どもの課題に対して答えが出ない際には、事業所に持ち帰り会議を行い後日お伝えしている。	まずは話したいという気持ちになってもらえるように傾聴の姿勢を大切にし、相談に対して的確に答えられるように専門性を高めていきます。
非常時等の対応	<p>42 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。</p>	100%	定期的な避難訓練を実施している。また職員会議の際には、感染や事故を想定した話し合い訓練等を行っている。	引き続き、毎月の避難訓練を継続して行なう。
	<p>43 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。</p>	100%	危機管委員を設置し、計画や研修訓練を実施している。	引き続き、BCPに基づいた避難計画を施設内で共有し、実践に移せるよう研修の場を設ける。
	<p>44 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。</p>	100%	事故につながった際には報告書を作成し、事業所内で改善策を考え、事故にならなくても数々ヒヤリハット場面については終礼時に共有している。	今後も大きな事故に繋がることがないよう、小さなヒヤリハットに関しても施設内で話し合いの場を設け、再発防止に努める。
	<p>45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。</p>	100%	事業所内で研修の機会を用いて行っている。	施設内で不適切な対応が行われることのないよう、療育内で生じた不安点や疑問点に関しては今後も終礼などで共有し、意見や解決策を出し合うようにする。
	<p>46 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。</p>	100%	現在はないが、そのような児がいた場合には適切に同意書をもらう。	保護者にも丁寧な説明を行い、了承を得るようにする。